

#### (4) 増加するがん患者数

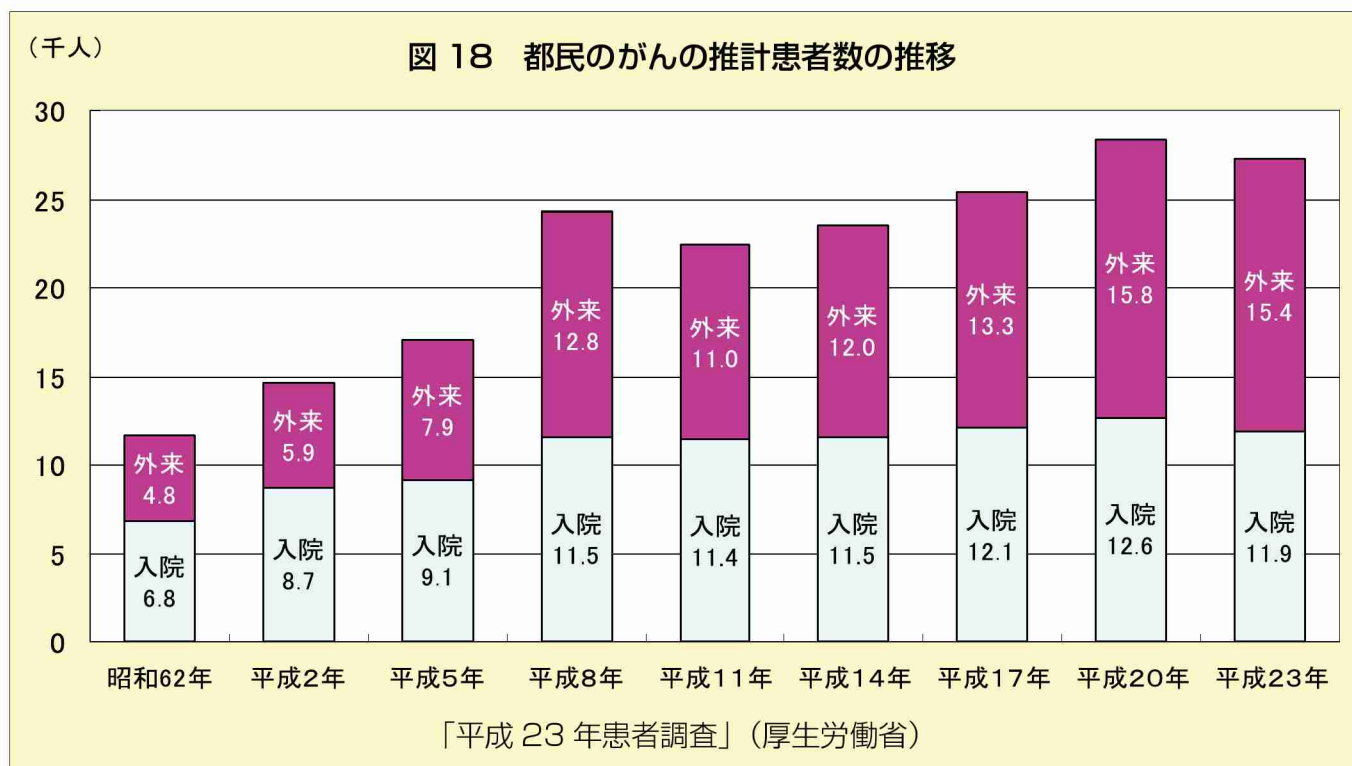
平成23(2011)年10月における1日のがんの推計患者数<sup>1</sup>は約2万7千人であり、都民の推計患者総数の約3%を占めています(表2参照)。

表2 都民の推計患者総数のうち悪性新生物が占める割合

		入院	外来	合計
都民の推計患者総数 (千人)		106.0	825.6	931.6
	うち悪性新生物	11.9	15.4	27.3
		11.2%	1.9%	2.9%

〔平成23年患者調査〕(厚生労働省)

入院、外来の別に見ると入院患者が約1万2千人、外来患者が約1万5千人であり、外来患者がやや多くなっています。推計患者数は、平成11(1999)年にやや減少したものの、その後は増加傾向で、特に外来患者が増加しています(図18参照)。



<sup>1</sup> 推計患者数：調査日の推計入院患者数+調査日の推計外来患者数。なお、がんの総患者数(入院患者数+初診外来患者数+(再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数))は約14万人

がんの部位別に見ると、入院患者に多いのは大腸がん、肺がん、胃がんであり、外来患者に多いのは、乳がん、大腸がん、前立腺がんとなっています（表3参照）。

表3 全国と東京都のがんの推計患者数（部位別）

	全 国				東 京 都							
	入院 134.8千人		外来 163.5千人		入院 11.9千人		外来 15.4千人					
1位	大腸がん	19.3千人	14.3%	乳がん	24.2千人	14.8%	大腸がん	2.0千人	16.8%	乳がん	2.6千人	16.9%
2位	肺がん	19.3千人	14.3%	大腸がん	23.9千人	14.6%	肺がん	1.7千人	14.3%	大腸がん	2.1千人	13.6%
3位	胃がん	14.9千人	11.1%	胃がん	19.2千人	11.7%	胃がん	1.2千人	10.1%	前立腺がん	1.7千人	11.0%
4位	肝がん	7.9千人	5.9%	前立腺がん	17.7千人	10.8%	肝がん	0.6千人	5.0%	肺がん	1.5千人	9.7%
5位	悪性リンパ腫	7.1千人	5.3%	肺がん	15.4千人	9.4%	悪性リンパ腫	0.6千人	5.0%	胃がん	1.3千人	8.4%
6位	前立腺がん	5.6千人	4.2%	肝がん	6.1千人	3.7%	食道がん	0.5千人	4.2%	悪性リンパ腫	0.6千人	3.9%
7位	乳がん	5.5千人	4.1%	膀胱がん	5.7千人	3.5%	膵がん	0.5千人	4.2%	口唇、口腔及び咽頭がん	0.5千人	3.2%
8位	膵がん	5.2千人	3.9%	悪性リンパ腫	5.5千人	3.4%	乳がん	0.5千人	4.2%	膀胱がん	0.5千人	3.2%
9位	食道がん	4.9千人	3.6%	口唇、口腔及び咽頭がん	4.0千人	2.4%	前立腺がん	0.5千人	4.2%	卵巣がん	0.4千人	2.6%

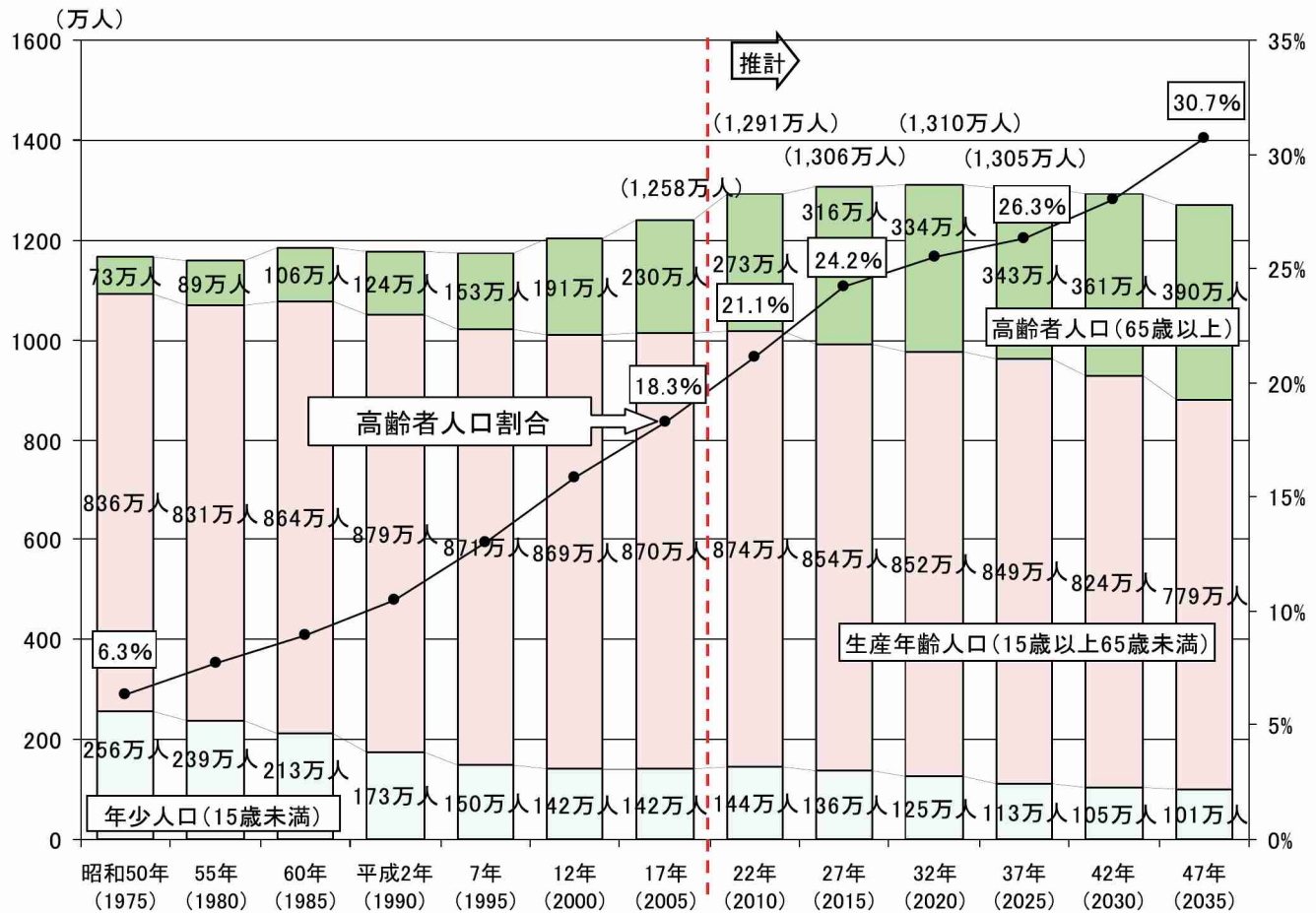
〔平成23年患者調査〕（厚生労働省）

※ 表中の値は、公表されている数値を用いて計算したもので、今後、元のデータから計算された結果が公表されるに当たって、小数点第一位の数字が変わるなど若干の修正があります。

平成22(2010)年の都民の高齢化率<sup>2</sup>は21.1%ですが、25年後の平成47(2035)年には30.7%になると推計されており、都民のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者になることが予想されます<sup>3</sup>(図19参照)。

平成22(2010)年の都民のがんによる死亡者数の内、約8割を65歳以上の高齢者が占めており、今後、高齢化の急速な進展によって、都民のがん患者数やがんによる死亡者数はますます増加していくことが見込まれます。高齢化によるがん患者数の増加を見据えて、より一層がん対策を充実・強化していく必要があります。

図19 東京都の将来推計人口



(注) ( )内は総人口。1万人未満を四捨五入しているため、内訳の合計値と一致しない場合がある。なお、実績(平成17年まで)には「年齢不詳」を含む。

資料: 総務省「国勢調査」[昭和50年~平成17年]

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19年5月推計)[平成22年~平成47年]

2 高齢化率: 65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

3 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の都道府県別将来推計人口」(平成19(2007)年5月推計)による。

## 2 東京都のがん医療における地域特性

### 東京都のがん医療の地域特性

- 都内には高度ながん医療を提供できる大規模な医療機関が、区中央部を中心に集積している。
- 二次保健医療圏の平均人口は全国の約 2.8 倍であり、比例してがん患者も多い。さらに、他道府県に居住する多くのがん患者が都内の医療機関を受療している。
- 交通網の発達により、がん患者の受療動向は医療圏を交錯している。

### (1) 高度・大規模な医療機関の集積

都内には、高度な診療機能を有する医療機関が多く存在します。高度な医療の提供等を行う特定機能病院<sup>1</sup>については、平成 24（2012）年 11 月 1 日現在、全国で 85 施設指定されており、この約 19% に当たる 16 施設が都内に所在し、更にこの内 6 施設が区中央部二次保健医療圏<sup>2</sup>（以下「医療圏」という。）に所在します。

また、500 床以上の大規模な病院については、平成 22（2010）年 10 月 1 日現在、全国で 460 施設あり、この約 12% に当たる 55 施設が都内に所在します（表 4 参照）。

このように、都内には、区中央部医療圏を中心に、高度ながん医療を提供できる大規模な医療機関が集積しています。

表 4 病床の規模別病院数（全国数における東京都の割合）

	全国（東京都除く）		東京都	
	数	割合	数	割合
20～49床	911	90.5%	96	9.5%
50～99床	2,053	92.3%	172	7.7%
100～199床	2,571	93.2%	187	6.8%
200～299床	1,067	94.9%	57	5.1%
300～399床	680	93.3%	49	6.7%
400～499床	336	91.6%	31	8.4%
500床以上	405	88.0%	55	12.0%

1 特定機能病院：高度先端医療の提供等を行う病院として、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）に基づき厚生労働大臣の承認を受けた病院

2 保健医療圏：医療法 30 条の 4 第 2 項第 10 号に基づき病床の整備を図るべき地域的単位として設定される圏域。初期の診断・治療を担う一次保健医療圏、一般的な入院・治療を担う二次保健医療圏、特殊な医療を担う三次保健医療圏がそれぞれ設定されている。

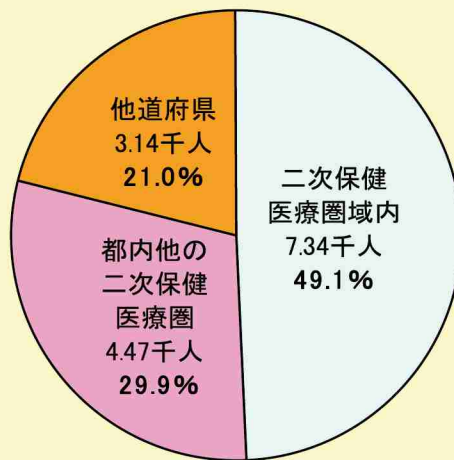
## (2) 二次保健医療圏を超えるがん患者の受療動向

都には、日本の全人口の1割強に当たる約1,320万人が居住しています。

都内の医療圏全13圏域の一医療圏当たりの平均人口は約102万人であり、全国平均である約37万人の約2.8倍となっています。

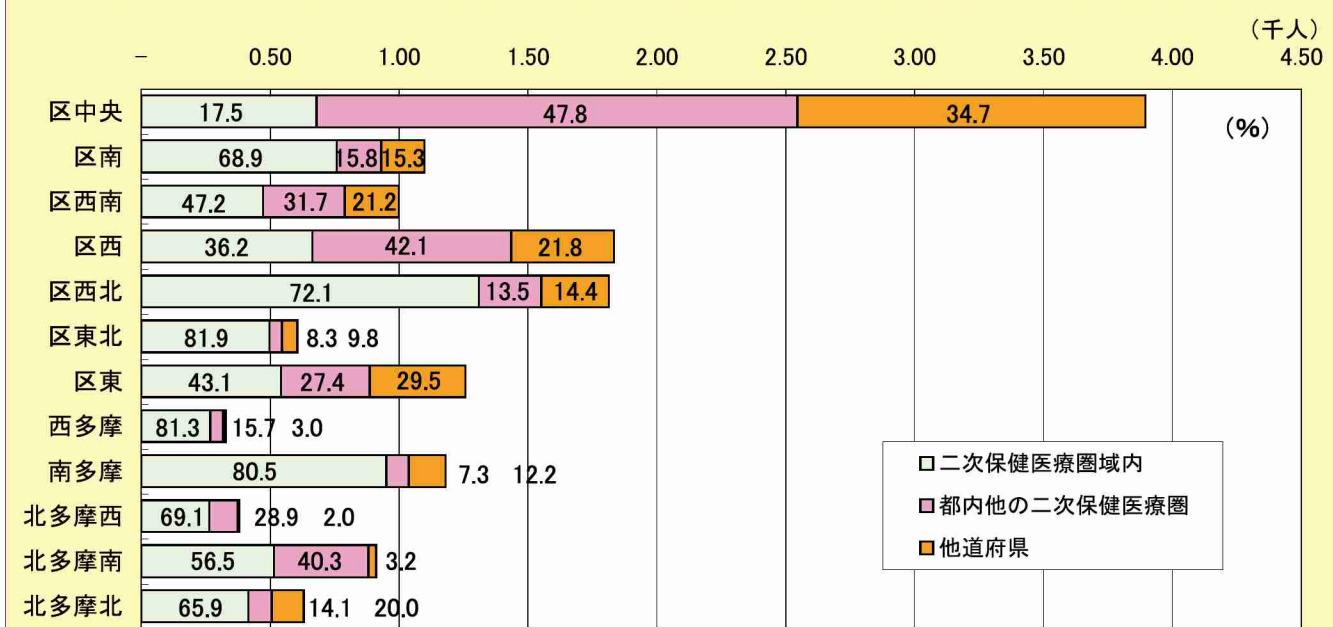
平成20(2010)年10月現在、都内の医療機関に入院しているがん患者の内、他道府県に居住する割合は21.0%であり、5人に1人が他道府県から都内の医療機関を受療しています<sup>3</sup>。また、入院している医療機関の所在と異なる都内の医療圏に居住する患者の割合は29.9%であり、3人に1人が都内の他の医療圏からの患者です(図20参照)。この傾向は、特に区中央部二次保健医療圏の医療機関で強く、約8割の入院患者が区中央部医療圏外から受療しています(図21参照)。

図20 都内における他道府県又は他圏域に居住する入院がん患者割合



「平成20年患者調査」(東京都福祉保健局)

図21 都内(二次医療機関別)における他道府県又は他圏域に居住する入院がん患者割合



「平成20年患者調査」(東京都福祉保健局)

このように、都においては、交通網の発達と相まって、多くのがん患者が、高度かつ専門的な診療機能を有する医療機関を、都道府県や医療圏を超えて受療しています。

3 「平成20年患者調査」(東京都福祉保健局)による。